

平成 16 年 8 月

日本保険・年金リスク学会 会員各位

実務ジャーナル編集委員会
編集委員長 松山直樹

査読誌「リスクと保険」の発行と論文の募集について

「JARIP 会報 No.2」の中でお知らせしましたように、今年度から、社団法人 日本アクチュアリー会との共同編集による実務ジャーナルが年 1 回、アクチュアリージャーナルの特別号として新たに発行されます。この実務ジャーナルに関しましては査読誌とし、「リスクと保険」と命名致しました。投稿に関する詳細に関しましては以下のとおりです。皆さんからの投稿をお待ちしております。

a. 論文のテーマ

保険・年金の数理、保険・年金の経済分析、リスク理論とリスク管理などに関するもので、アクチュアリー実務の発展に寄与するもの。また、これらの分野の教育方法の改善に関する論文。未公開のものに限ります。

b. 投稿種別

投稿の際に、以下の種別から一つを選んでください。なお、レフリーまたは編集委員会の判断により、種別を変更する場合があります。

研究論文

a. のテーマに沿った独自の研究成果。レフリーによる査読あり。

ノート

上記「研究論文」に比べて、独自性の点十分ではないが発表する価値のあるもの。レフリーによる査読あり。

展望論文

特定の分野に関してこれまでに発表された一連の研究を、著者の見解により体系化して、総括的に解説しているもの。レフリーによる査読あり。

ケーススタディー(事例研究)

現実が発生した特定の事例や問題に関して、理論的な観点をもとに著者の見解を加え、どのようにして問題を解決できたかを解説することにより、他者の研究あるいは実務の参考になるもの。レフリーによる査読はないが、編集委員会で採否を決定します。

書評(編集委員会により採否決定)

他者の公刊された著作物に関し、その解説と批評を加えたもの。レフリーによる査読はないが、編集委員会で採否を決定します。

その他

上記 a. に示された分野における教育方法の革新や提案・解説、内外研究動向など。

c. 注意事項

論理的な論旨展開を行ってください。

著者独自の貢献の範囲と、他の著作物・先行研究からの引用の範囲を明確に区別してください。

提出された論文は、編集委員会が依頼した匿名のレフリーによる審査報告書を検討し、掲載の可否を決定します。この際、著者に補足説明や論文の修正が条件として求められる場合があります。

個人名または個人の連名により投稿してください。

謝礼はありませんが、抜き刷りをお送りします。

投稿資格は限定していません。

原稿は和文とします。

d . 投稿期限

9月末。査読などが順調に進んだ場合、当年度内に発刊される号に掲載されます。

e . 送付先

〒104-6002 東京都中央区晴海 1-8-10

晴海アイランド トリトンスクエアオフィスタワーX棟2階

日本アクチュアリー会 「リスクと保険」論文募集係

メールの受付：riskhoken@actuaries.jp

従来のアクチュアリージャーナルへの投稿と区別できるよう、必ず「リスクと保険」論文募集係へお送りください。

f . 採択された場合の取り扱い

著作権は、日本保険・年金リスク学会及び社団法人 日本アクチュアリー会に属します。「リスクと保険」に掲載されるほか、タイトル、著者名、要約、キーワードはホームページで公開される予定です。また、全文は両者の会員に限り、ホームページでPDFファイルとして閲覧可能とします。著者が自己の著作物を複製、転載、翻訳、翻案等の形で利用することは任意ですが、掲載先に出版を明記してください。

g . 執筆要項

詳細に関しては、日本保険・年金リスク学会のホームページに例示し、スタイルファイルも掲載しますのでご覧ください。(URL: <http://www.jarip.org/>)

A4サイズで50ページ以内(含図表)。本文、注、参考文献は2段組。スタイルファイルに基づき、Microsoft WordまたはLaTeX2にて原稿を作成する。LaTeX2の場合は、PDFファイルに変換してから送付する。送付の際、印刷した「ハードコピー」と、原稿を収めたフロッピーディスク、MOディスクまたはCD-Rディスクを提出する。なお、E-mailにてファイルを送付してもよいが、ハードコピーは別途必ず提出する。タイトル、著者氏名、所属名、連絡先(住所およびE-mailアドレス)、和文要約400字以内、キーワード5語以内、本文、注、参考文献の順で構成する。

英文タイトル、英文著者氏名、英文所属名、英文連絡先、300語以内の英文サマリーをとは別に添付。

本文の見出し番号は、章に関しては1、節に関しては1.1のように付ける。つまり

1.

1.1

1.1.1

のようにする。

図表・グラフ等は原則として本文中に記載するが、それが数ページに及ぶ場合には、末尾にまとめて記載する。タイトルには、「図1」「表1」のように通し番号をつける。

図表は他者の図版を使用する場合は著作権者の了解を得、出典を明示する。表のタイトルはその上部に、図のタイトルはその下部に書く、説明文はいずれも下部に書く。数式については、できるだけ簡潔な表現を使うこと。変数名は通常、半角イタリックを用いる。番号を付ける場合は、数式の右側に $\cdots(1)$ 、 $(1-1)$ のようにする。注は本文の最後（参考文献リストの前）にまとめ、ページごとの脚注は避ける。本文中の該当箇所は肩付きの通し番号を付ける。他の著作物から引用する場合は、本文中または注の該当箇所に著者名〔西暦〕のようにする。

例1 守田[1973] 例2 Gallo and Lockwood[1995]

参考文献は、基本的に引用した文献のみで構成する。参考文献リストは、論文末にまとめて掲載する。日本語文献（姓のあいうえお順）、外国語文献（Family NameのABC順）にする。著作名、雑誌名は『』、論文名は「」で括る。英数字、括弧[]、コロン（:）は半角文字を使用する

例 和文文献

保険一郎[2004], 「保険業におけるリスク管理」, 『保険年金ジャーナル』, Vol.1, No.1, 15-25頁.

守田常直[1973], 『保険数学(上)』, 生命保険文化研究所.

例 欧米語文献の場合 単行書: 著者・編者名[刊行年], 著作名, 発行所 (訳書).
論文: 著者名[発行年], "論文名," 雑誌・収録書名, 巻, 号, 頁 (訳書).

Gallo, J. G. and L. J. Lockwood[1995], "Determinants of pension funding and asset allocation decisions", *Journal of Financial Service Research*, Vol.9, No.2(June), pp.143-158.

Gerber, H. U., W. Neuhaus, and S. H. Cox[1997], *Life Insurance Mathematics*, Springer-Verlag, 3rd Edition.

注意点:

- ・ 著者名（複数の場合は第一著者）は「ファミリーネーム, ファーストネームのイニシャル」の順番で記述する。
- ・ 著作名、雑誌名は原則として斜体（イタリック体）で記述する。

インターネット上の文献・資料等の場合

著者名[発行年]「タイトル」URL（アクセス日時）

文体は口語体の「である調」、文字は新仮名遣い、当用漢字を原則とする。

句読点は「,」と「.」とする（ただし、邦文の場合は全角文字とする）。

英数字は半角文字とする。

半角カタカナは不可。

本文・図表とも著者原稿のまま写真製版する。最終原稿では頁番号を振らずに提出する。